

販売員のニーズに応えたアプリを自社開発

カインドウェアは、創業明治27年と100年以上の歴史を積み重ねてきたフォーマルウェアのトップメーカーだ。略礼服を世に広めた企業でもあり、現在は全国の百貨店や専門店に135のショップを構える。

従来、全店の売上や棚卸などの業務はバーコードスキャナとPDAベースの販売管理システムを利用していた。だが、マスターデータをPDAで保持できずに、送信デ

ータの履歴がPDAに残らないため、個々の業務で数量や売上誤差が発生する原因となり、FAXでの再確認など業務効率が悪いという課題を抱えていた。また、PDAとバーコードリーダに電源コードが必要なため、景観の問題で開店中は使いにくい面もあった。

これらを、スマートフォンをベースにした新システムへ刷新することで解決。業務効率の向上を実現した。スマートフォンとソア・システムズ社の業務アプリ開発ツール「ル・クロン」を組み合わせ、自社開発した。バーコードスキャナはUSBで接続。低コスト・短期間での構築に加え、カスタマイズにも柔軟に対応できるようになった。

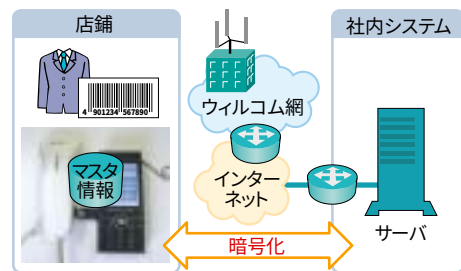
また、社内システムへのリモートアクセスにはIPsecを活用しており、セ

業種	フォーマルウェアメーカー
活用分野	業務効率化、情報共有
テクノロジー	スマートフォン、業務アプリ、セキュリティ



総務情報システムグループリーダーの高瀬育夫氏（左）と宮田千枝子氏（右）

店舗販売管理システムの構成



キュリティ面も考慮したシステム構成になっている。さらにウィルコム提供の「Quick Menu for Biz」も利用し、ITに不慣れな販売員にも使いやすい操作性を実現。端末内に商品マスタを置けるため、データ送信前の確認ができ、店側で集計・分析できる仕組みも整った。電源コードが不要になったことで、現状では営業時間中の棚卸も可能となっている。